

「あなたの信仰があなたを救った」

マルコによる福音書 5 章 21 - 43 節

森島 牧人 牧師

今日与えられた聖書は、マルコ 5 章の中の「ヤイロの娘とイエスの服に触れる女」という小見出しのあるところで、ゲラサ人の地方で悪霊に取りつかれた男を癒された主イエスが、舟で対岸から戻って来られたところから始まります。

大勢の群衆と共に湖のほとりにおられた主イエスのところへ会堂長の一人であるヤイロがやって来て、イエスの足元にひれ伏し「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」(マルコ 5 : 23) と懇願します。ヤイロの、親としての必死の思いを理解された主イエスは、すぐにヤイロの家に向かわれました。大勢の群衆もぞろぞろとその後に続きました。

その群衆の中に 12 年もの間、出血が止まらない若い女がいました。12 年という歳月、それは若い彼女の人生の大半を占めるものでした。その間、治癒を求めて方々の医者を探ねましたが効なく、そのために費やした金額は莫大なものとなって、いまや彼女は経済的困窮に追い込まれていました。さらに彼女は「汚れている」として、宗教的・社会的差別を受けねばならなかったのです。このような絶望的な日々を、死ぬことが出来ないからという理由だけで彼女は生きていたのです。そんな彼女が群衆に混じって、主イエスに近づこうと、後方を歩いていました。それは、期待を裏切られ続けた彼女の中に、まだ残っていた微かな希望によるものだったでしょう。主イエスに正面から近づくことの出来ない身であることを知っていた彼女は、「主イエスの衣に触れたい」というただそれだけのひたむきな思いで、群衆の中を必死で歩いていたのです。

彼女が群衆をかき分けて行き着いたそこに、主イエスはおられました。女が一方的に近づいたはずでしたが、主もそこに来られたのです。この女と主イエスとの出会いは、私たちが神と出会うその時と同じです。聖書が語っているように神は遠くにおられるのではなく、私たちが呼びかけるその時、そこにおられるのです。主の衣に触れた瞬間、彼女は病の癒えたことを感じとりました。と同時に御自分の内から力が出て行ったことに気づかれた主イエスは、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われます。これは、主イエスが彼女と出会おうとされてのお言葉です。聖書には「女は震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。イエスは言われた。『娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らさなさい。』」(同 5 : 33 - 34) とあります。

彼女は主の前にひれ伏し、対話することによって真の救済に与ることが出来たのでした。主イエスが女の中にある御自分への「信頼」に強く心動かされ、ヤイロの娘のことを後にしてなされたこの珍しい奇跡は、聖者の遺物信仰に紙一重の奇跡物語として、今に伝わっています。祝福の思いを込めて女を送り出される主イエス。彼女は、その生涯を、この日の主の御言葉の中に、全うしたに違いありません。

すぐ近くにおられて私たちと共に生き、私たちを生かしてくださる神、その神に全幅の信頼を置き、絶えず呼び掛けをしながら日々を歩んで行きたいと思います。